



EY Difference

キャリア案内

EY新日本有限責任監査法人





Whenever you join,
however long you stay,
the exceptional EY experience
lasts a lifetime.

変化に対応し、一緒に未来を創っていききたい

「変化の先へ、あなたと共に」

皆さんは、今、ご自身の将来をどのように考えられていますでしょうか。公認会計士としての業務をしたい、公認会計士としてさまざまなチャレンジをしたい、公認会計士として成長したい、チームメンバーと一緒にクライアントに付加価値を提供したい、そして、社会に貢献したい、などなど。私は、このような皆さんの思いを、ぜひEY新日本で一緒に実現していきたいと考えています。

私たちは、「Building a Better Working World～より良い社会の構築を目指して」をパーパス（存在意義）として掲げています。EY新日本は、グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献する監査法人です。また、EY新日本では、各メンバーがマイパーパスを持っています。当法人のパーパスと個々人のマイパーパスの方向性を一致させて、各メンバーのWell-beingを高めるとともに、すべての活動や業務が、「より良い社会の構築」「経済社会の円滑な発展」に向かっていくような取り組みを実践しているところです。私のマイパーパスは「信頼付与によるクライアントの企業価値向上への貢献」です。ちょっと堅苦しく感じるかもしれませんが、マイパーパスは、文字通り個々人のものですので、例えば、「仕事もプライベートも楽しむ」というメンバーもいます。皆さんのマイパーパスはどのようなものでしょうか。マイパーパスとEY新日本のパーパスを同時に実現することは本当に素晴らしいことです。

さて、最近の私たちを取り巻く環境は、経済、生活環境、規制など、とても変化に富んでいます。デジタル技術の進化、気候変動、インフレ、海外を中心とした金利上昇、リモート環境での業務の普及、地政学リスク、企業開示の拡充などさまざまな変化があります。このような変化に対して、監査法人はどのようなことをしなければならないでしょうか。一言で言えば、社会の期待に応えるべく「変化に対応する」です。デジタル技術の進化は、「既に起こった未来」であり後戻りすることがないトレンドです。EY新日本では、次代の監査・保証サービスを提供するビジネスモデルであるAssurance 4.0を推進しています。最先端のテクノロジーを活用して、より効率的で深度ある監査に向けて前進しています。また、サステナビリティへの取り組みの重要性が急激に高まっています。経営アジェンダとしてのサステナビリティ対応から情報開示に至るまで、一貫したサービス提供が可能な体制も整えました。私たちは、変化に対応すべく「EY新日本から変わる、変える」をスローガンに、イノベティブな監査法人で在り続けていきます。

このようなEY新日本で、マイパーパスを持って一緒に変化に向かってチャレンジしてみませんか。その先で、皆さんの思いがEY新日本で実現されれば、これほどうれしいことはありません。これは私のもう一つのマイパーパスです。

小澤 裕治
常務理事 経営管理本部長

※2023年7月1日現在


















EY People Career Map

キャリアマップ

本誌内に登場するメンバーが今まで経験した業務や分野をご覧ください。取り組めるフィールドは幅広く用意されています。それぞれが興味のある分野へと活躍の場を広げる中で、以降のページでは各メンバーが直近で従事している業務の一部をご紹介します。

◎は専門・得意分野 ●はこれまでに経験した業務・活動

※1 FAAS:財務会計アドバイザーサービス ※2 Forensics:不正調査・不正対策・コンプライアンスに特化したサービス ※3 CCaSS:気候変動・サステナビリティ・サービス(2023年6月現在)
 ※4 SaT:戦略およびM&Aアドバイザーサービス ※5 EY Ripples: EY がグローバルで取り組む社会貢献活動 ※6 EYフレリモ:フレキシビリティ高くリモートワークも活用した働き方を推進する施策

本誌内掲載ページ	メンバー	事業部	職階	監査	金融	パブリック	グローバル	IPO	デジタル	FAAS ^{※1}	Forensics ^{※2}	CCaSS ^{※3}	SaT ^{※4}	地区	Ripples ^{※5}	フレリモ ^{※6}	業種、業界	その他活動	
8.9	 Y.Ma	第4事業部	スタッフ	●		●				●						●	石油		
10.11	 M.Asano	金融事業部	スタッフ		◎												●	銀行	
12.13	 A.Shimada	第3事業部	マネージャー	◎			◎		●								●	小売・外食、製造業	海外駐在、海外語学研修
14.15	 R.Iwata	第5事業部	マネージャー	◎		●	◎	●	◎					◎			◎	モビリティ(自動車)	
16.17	 M.Noguchi	第2事業部	パートナー	◎			◎	◎	●	●							●	テクノロジー、製造業、メディア・エンターテインメント	海外駐在、執筆、研修講師
18.19	 A.Hiraoka	第2事業部	パートナー	◎			◎	●	●								●	消費財、製造業、ライフサイエンス	
20.21	 A.Murata	Forensics	シニアマネージャー	◎	●		●			●	◎						●	テクノロジー、ソフトウェア	外部出向、執筆、研修講師
22.23	 N.Ichihara	アシュアランスイノベーション本部	パートナー	◎	◎		◎		◎								●	銀行・証券	海外駐在、執筆、外部講師
24	 T.Koizumi	アシュアランスイノベーション本部	シニア	◎			●		◎								●	化学	GradLab
25	 Y.Furubayashi	CCaSS事業部	シニア	◎			●	●				◎					●	消費財・小売、テクノロジー、製造業	研修講師
26	 M.Morioka	EYSC	コンサルタント	◎			●	●		●				◎	◎		●	モビリティ(自動車)、製造業、消費財・小売 など	研修講師、海外語学研修
27	 Y.Mitsui	EY ロンドン	シニアマネージャー	◎	●		◎	●	●								●	製造業、建設、ライフサイエンス	海外駐在、執筆、研修講師、海外語学研修
28.29	 K.Sakaguchi	第1事業部	スタッフ	●				●									●	製造業、商社	
28.29	 S.Kojima	第1事業部	スタッフ	●			●		●								●	製造業、商社、テクノロジー	研修講師
28.29	 T.Kawagishi	第1事業部	パートナー	◎			◎	◎	●								●	化学、製造業、宇宙、テクノロジー、ソフトウェア、商社、モビリティ(自動車)、建設	海外駐在、執筆、研修講師、グローバル人材育成、女性活躍推進
30.31	 Y.Amano	大阪事務所	シニアマネージャー	◎			◎		●					◎				小売、ライフサイエンス、モビリティ(海運業・自動車)、化学	
30.31	 M.Katayama	名古屋事務所	マネージャー	◎		◎								◎			◎	建設、製造業、パブリック	海外語学研修

EY People Career Paths

キャリアパス

EY新日本では、主体的なキャリア設計を可能にするロードマップとして、5つのキャリアを設定しています。キャリアに応じた役割をまっとうすることはもちろんですが、これからどのように成長していけるのかを常にイメージし続けることで、自身の成長を促し、高い専門性と人間性を身に付けたプロフェッショナルとして活躍してほしいと考えています。

各キャリアに
求められる役割

Staff スタッフ

上司の指導の下、監査実務はもちろんのこと、会計・監査に関する基本知識を習得します。カウンセラーとのコミュニケーションを通じて、キャリア目標に必要な経験を身に付け成長していきます。スタッフの上の年次では、小規模クライアントの主査となることもあります。



2022年入社
第4事業部 スタッフ
Y.Ma
P.02

Senior シニア

大規模クライアントの補助者として主査を補助するとともに、中小規模のクライアントにおいては主査として、現場を統括します。高い監査能力、知識のほかに、主査としてクライアントと良好な関係を保つことやスタッフの指導・育成も重要です。



2017年入社
CCaSS事業部 シニア
Y.Furubayashi
P.25

Manager マネージャー

大規模クライアントの主査として現場を統括します。大勢のシニア、スタッフの指導・育成やクライアントとの数多くの調整など、大規模クライアントならではの管理・調整能力も必要です。



2005年入社
第5事業部 マネージャー
R.Iwata
P.14

Senior manager シニアマネージャー

複数のクライアントの監査業務全般を統括します。高度な専門的知識はもちろんのこと、高いレベルの業務管理能力、問題解決能力も必要となります。



2007年入社
Forensics事業部
シニアマネージャー
A.Murata
P.20

Partner パートナー

法人の出資者であり、経営にも関与します。監査業務においては責任者として、クライアントに質の高いサービスを提供するために、高度な判断力が必要となります。



2005年入社
第2事業部、企業成長サポートセンター、
JBS アシュアランスデスク
パートナー
M.Noguchi
P.16

掲載メンバー

その他掲載メンバー



M.Asano P.10
K.Sakaguchi P.28・29
S.Kojima P.28・29



T.Koizumi P.24



A.Shimada P.12
M.Katayama P.30・31



Y.Mitsui P.27
Y.Amano P.30・31



A.Hiraoka P.18
N.Ichihara P.22
T.Kawagishi P.28・29

メンバー紹介

2022年入社
第4事業部
スタッフ
Y.Ma



自分の成長が、 より良い社会の実現につながっていく

パブリックセクターの実績で 群を抜くEY新日本

中学時代には産業としての農業に関心を抱き、大学の農学部では林業の研究に取り組みました。よく知られているように日本の林業は採算が取りづらいビジネスです。しかしサステナブルという側面では非常に価値の高い産業であり、業界でもESG投資に注目が集まっています。私は林業を学んだことをきっかけに非財務情報の開示に興味をもち、公認会計士として関与したいと志しました。公認会計士ならではの専門性を発揮することで社会課題の解決に貢献できるのではないかと考えたのです。

EY新日本のパブリックセクターは豊富な実績と高い専門性を誇っています。一方で、すべての事業部においてパブリック、アドバイザリー、IPOなどを経験できる体制があります。公共機関の監査や非財務情報の保証のほか、一般事業会社の監査やアドバイザリー業務も経験したいと希望していた私にとって、多様な選択肢の中から主体的にキャリアを構築していける点は非常に魅力的で、EY新日本を選んだのは自然なことでした。

1年目から多様な経験を積んでいく

入社後は第4事業部に配属され、パブリックセクターの監査業務に従事しています。同時にエネ



ルギーセクターの業務も兼務。一般事業会社である石油関連の上場会社と子会社の監査業務に携わっています。エネルギー関連とあってサステナブル領域には敏感な企業であり、私もやりがいをもって取り組んでいます。パブリックセクターでの業務や非財務情報に関わりのある分野は入社前から希望していたので、担当できてうれしく感じています。パブリック領域では、監査業務を通じて私たちが指導的立場を発揮することが、一般事業会社以上に求められていることが多くあります。EY新日本ではこの領域での支援をさらに充実させるため、「パブリック・アシュアランス・センター」を設立。リーディングファームとしての基盤を一層強化させています。私は「パブリック・アシュアランス・センター」を

通して、宇宙ビジネス関連のアドバイザリー業務にも1年目から従事しています。この業務により、サービス業としてクライアントのニーズに応じていくということを、さらに強く意識するようになりました。これは監査業務においても重要な感覚だと受け止めており、バランスよく取り組むことができます。

より価値あるサポートのために

入社前、公認会計士は資料とパソコンを注視しながら仕事するというイメージでした。しかし実際はまるで違って、クライアントにヒアリングし、アドバイスを送りながら進めていくという、人対人の仕事です。特にパブリックセクターの場合は、クライアントと二人三脚で、一緒に社会課題の解決に取り組んでいくという感覚があります。2年目には主査となり、担当クライアントの中で、より責任ある立場の方とコミュニケーションをとるようになりました。数字だけではつかみきれない、クライアントのリアルな事業像が把握できるようになったと感じています。今後も公共機関と一般事業会社の監査業務、アドバイザリー業務にバランスよく携わることで、

より価値の高いサポートを提供していきたいと考えています。また非財務情報開示の保証業務や海外駐在にも挑戦したいと思います。そして、こうしたキャリアを積み重ねていくことで、EYの掲げる「Building a better working world〜より良い社会の構築を目指して」というパーパス(存在意義)に沿った貢献を目指したいと考えています。

CAREER

- 2022年
入社。
第4事業部配属。国際機関、私立学校の支援機関、一般財団法人などの監査業務に従事するとともに、石油関連の上場会社とその子会社も担当。リクルート業務やFAAS-GPSのアドバイザリー業務にも関与。
- 2023年
引き続きパブリックセクターと石油セクターにて、多様な業種の監査業務にコアメンバーとして携わる。



第4事業部 (パブリックセクター)

ライフサイエンステクノロジー(製薬・医療/精密機器など)、エネルギー(電力・ガス・石油など)、パブリック(地方自治体・学校・病院など)の3つのセクターにより構成され、多様な業種の監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。グローバルに展開する大手企業、スタートアップ企業、そして地域の重要なインフラを支える非営利組織など、規模もマーケットも多様なクライアントに対して、多様性と専門性の両方を追求し、サービスを提供しています。



メンバー紹介

2022年入社
金融事業部
スタッフ

M.Asano



チームの先輩に学びながら、 高い専門性を磨いていく

金融でトップクラスの実績

公認会計士という仕事の存在を知ったのは高校生のときでした。高い専門性を有したスペシャリストというイメージに強く憧れたものです。特にジェンダーの垣根なく活躍できる点は、長く働きたいと考えていた私の希望に合うと感じました。その後、経済学部に進学し、本格的に受験勉強に取り組みました。

法人を選択するとき考えたのは、金融機関の監査に携わりたいということでした。銀行などの金融機関が保有する債券などの自己査定をサポートを通じて、公認会計士は一般事業会社を幅広く見て、経済社会全体を俯瞰(ふかん)することがで

きます。その点でせっかく携わるならメガバンクがいいと考え、金融分野でトップクラスの実績を誇るEY新日本を志望しました。米国会計基準(US GAAP)を適用している点にも引かれました。常勤切替前には2カ月間、学生非常勤として働かせてもらいました。学生でありながら週に数日、監査業務に携われたことで、一足早く社会人としての経験が積めたと思います。

しっかり向き合って教えてもらえた

入社後は希望通り金融事業部に配属され、メガバンクの監査業務を担当しました。もちろん知識も経験もほぼゼロでしたから、最初は先輩

からの指示に従い目の前の業務をこなしていくだけで精いっぱい。ひたすら手を動かして監査ツールの使い方などを覚えていきました。入社直後の時期は、ちょうどチームの繁忙期にあたります。そのため先輩は多忙を極めていたのですが、私が疑問に思ったことを質問すると業務の手を止めて、しっかりと正面から向き合って丁寧に教えてくれました。

こうした経験を経て、2年目には自分の作業にはどんな意味があるのか、この調書は何のために作成しているのか、ということがずいぶんわかるようになりました。背景を理解した上で業務に取り組めるようになったことで、コアメンバーとしてチームに貢献できているという実感をいただいています。調書を作成する上で資料に疑問点がある場合は、直接クライアントに連絡してコミュニケーションをとる機会も増えました。大切なのは受け身ではなく、プロアクティブな姿勢で業務に向き合うこと。そんな気持ちで日々を過ごしています。

最高のオフィス環境で テンションも上がります

まだ2年目の若手とはいえ、メガバンクとのやり



とりは緊張しますし、1つのミスもあってはならないと自分に言い聞かせています。私も“金融のEY新日本”というイメージを支える一員なので。これからはチームの先輩のように自立した公認会計士として、自ら判断し、行動できるようになりたいと思っています。また、シニアに昇格したら若手の育成も担当することになるので、私が指導してもらった恩返しに、真正面から向き合った育成を目指します。

EY新日本で働いていて強く感じるのは、オフィス環境の素晴らしさです。立地はもちろんのこと、室内の設備やインテリア、空間設計なども目を見張るほどで、テンションが上がります。また、オフィスはフリーアドレスになっているため、その日の業務内容に合わせて座席を選ぶことができます。こんな素晴らしい環境に恵まれてい

るからこそ、業務にもしっかり集中できるのは間違いありません。また、育休取得前の先輩に対して、チームのメンバーが体の負担にならないようにとさまざまな配慮をしていたことがあり、私が出産・子育てを迎えることになってからも心配いらないという安心感が得られました。

CAREER

- 2022年
入社。
学生非常勤として2カ月間勤務した後、入社。金融事業部に配属され、メガバンクを中心に金融機関の監査業務に従事。併せてリクルート活動にも関与する。
- 2023年
引き続き金融事業部で、メガバンクを中心にコアメンバーとして監査業務に携わる。



MESSAGE

皆さんにお会いできる
ことを楽しみにしています!

金融事業部

銀行、証券、保険、アセットマネジメントの各分野において最大規模の人員・クライアントを擁し、業界において優れた実績を長く持つ総合的な金融サービスを提供。EY新日本の強みであるグローバル業務やアドバイザリー業務に加え、FinTech企業のIPO業務など、多彩な業務経験や高い専門性を得られる領域があります。業界の卓越したサービスを提供しているEY新日本に所属する公認会計士のキャリアの可能性もますます広がっています。

メンバー紹介

2013年入社
第3事業部
マネージャー
A.Shimada



グローバルな環境で得たプラクティスを、 会計監査の進化のために

やりたいことに挑戦できる

「会計は社会を見る窓である」という教授の言葉に触発され、多様な業種の多様な企業を見たいと思って志望することにした公認会計士。生涯の武器として活用できる専門性も身に付けられると考えました。そうした背景から、法人選びに際しては組織の規模が大きく、グローバル案件も豊富に手がけているという条件で大手法人に絞って検討しました。最終的な決断に際しては、悩んだ末EY新日本に決めました。以来これまで、EY新日本は私の取り組みたい業務に携わるチャンスを用意し、しっかりとサポートしてくれました。入社時からグローバルな案件

に携わりたいと考えていた私は、2年目には外資系ファストフードを担当。語学力を身に付けたいと考えたときにはフィリピン語学研修の機会を提供してもらい、さらにはEYシカゴへの赴任も実現しました。自分が望めばいくらかでもチャレンジできることがEY新日本の素晴らしい点です。EY新日本の入社は直感で決めたとしか言いようがないのですが、改めて当時の決断は正しかったと振り返っています。

米国で感じた会計監査の未来

EYシカゴに赴任したのは、8年目のことです。世界各国からメンバーが集まった、文字通り多国籍



の環境の中、日系子会社の監査業務などに携わりました。渡米前、米国人はストレートな物言いを好み、何事に対してもオープンであるというイメージを持っていました。しかし実際に一緒に働いてみると決してそんなことはなく、一人一人、考え方も行動も異なるということを知りました。場の空気を読んだり、相手に忖度（そんたく）する米国人は珍しくありませんし、ダイレクトな言葉に傷つく点は日本人と変わりません。異文化コミュニケーションの中で得たこうした感覚は、日本企業のグローバル活動をサポートする上で十分に生きてくると感じています。驚いたのは監査業務のクオリティーの高さでした。当時から既にテクノロジーを活用しデータ分析が行われており、最先端のDigital Auditの実態を見ることができました。日本での会計監査は、まだサンプリングが中心のトラッドなものが主流です。最先端のテクノロジーによるデータ分析手法を導入すれば今まで以上の深掘りが可能

になり、監査のクオリティーは高まっていくことでしょう。EYシカゴ赴任途中にマネージャーに昇格し、現地で得た私の知見や経験を、こうした進化のために還元したいと考えながら帰国しました。

「人間だからできること」を 追究したい

今私が考えているのは、AI時代だからこそ公認会計士のスキルが重要になってくるということです。単純な手作業はテクノロジーに委ね、私たち人間は会計基準の適用など、より高度な判断力が求められる領域を担当しなくてはなりません。そのためには過去の経験に満足せず、常に学び続けることで自分をアップデートしていかなければならないと考えています。同じ企業を監査していても毎年論点は変わっていきますし、見えてくる景色も違います。私は入社2年目から外資系ファストフードの会社を担当しているのですが、食べることが好きなのでこのクライアントのお店にもよく立ち寄って食事をしています。その際に一消費者として感じる企業の魅力や課題なども、人間だから得られる情報といえます。こうしたことを考えると会計監査の仕事は奥が深く、もっと楽しく、もっとやりがいを持って取り組めると考えています。この先、公認会計士としてのさらなる成長が楽しみです。

CAREER

- 2013年
入社。
学生非常勤からキャリアスタート。入社当時からグローバルな領域での活躍を志望。商社子会社や不動産ファンドなどの監査業務に携わる。
- 2016年
シニア昇格。
2年目から現在まで担当している外資系ファストフードの主査になる。
- 2019年
フィリピン語学研修などで英語の学習を続け、当初の目標であった海外赴任が実現。当時の海外派遣プログラムでEYシカゴへ赴任。
- 2020年
EYシカゴでマネージャー昇格。
- 2021年
海外赴任前に担当していたクライアントの監査チームにマネージャーとして帰任。EYシカゴの経験をチームに還元する。小売業のリファーマルのエンゲージメントも担当。
- 2022年
製造業のクライアントに、海外担当として関与する。



第3事業部

小 売業、外食業、製造業などの企業を幅広くカバーしています。生活に身近なビジネス、商材を扱う企業の多いことが特徴で、棚卸立会など、公認会計士としての基礎的な業務を学ぶ上でも適しているといえます。大企業だけでなく、中小・中堅企業、IPOが多いことも特徴です。

メンバー紹介

2005年入社
第5事業部
マネージャー
R.Iwata



ライフステージに合わせ、 しなやかに自分らしいワークスタイルを

退職後の復帰もスムーズ

夫の転勤に伴って地方の事務所への異動を希望したときも、復職したいけれど子どもがいるのでフルタイムで働くのは難しいと相談したときも、EY新日本は私の気持ちを受け入れて、私にとって最も良い結論を提案してくれました。働く仲間のことを大切にしてくれる、本当に素晴らしい組織だと感じています。

仙台事務所に異動したのは入社5年目。他業界で働く夫が転勤することになり、繁忙期が終わったから私も仙台に異動させてもらえないかと上司に相談したところ、翌月に異動できるように上司が調整してくれました。その後、夫の海外赴任に伴

い退職した後、再入社した際は、2人の子どもがいるため、当時の制度に基づいて週4日かつ短時間勤務の契約社員を選びました。一度は退職したのにもかかわらず、受け入れてもらえるだろうかと不安だったのですが、拍子抜けするほどあっさりと迎え入れてくれました。しかも復職初日、チームミーティングで盛り上がっている最中には「そろそろ退社時間では」と、時短勤務の私にメンバーが声をかけてくれました。細やかな心遣いに、とても温かい職場だと感じました。

デジタルで激変した仕事環境

大手監査クライアントが多いことに引かれて

入社したEY新日本。入社1年目から大手自動車メーカーの会計監査を担当し、現在も自動車業界の大手部品メーカーを担当しています。この間の環境の変化は大きく、特にデジタルツールは監査の業務を劇的に変えました。以前ならば会計上のリスクを発見するのは簡単ではなかったのですが、デジタルツールのおかげで全体を俯瞰(ふかん)しながらより早くリスクを見つけられるようになり、それが監査の品質を大きく上げてくれたと感じます。またEYグローバルで進められているテクノロジーを活用したデータ分析(データドリブン監査)と監査メソッドロジーとが融合した監査手法(Digital GAM)の運用も、EY新日本で始めました。これは、私たちがEYグローバルの一員であることを以前よりも強く意識させられることにもつながっています。

海外駐在に挑戦したい

今最もホットなワードは、サステナビリティです。上場企業に非財務情報の開示が義務付けられるなど、私たち公認会計士にもサステナビリティ関連の専門知識が求められるようになりました。私自身も外部の研修などを通じて学んでいかなくてはならないと感じていますが、今後はこの分野で強みを持つ人材がEY新日本のドアをノックして入社されるケースが増えるのではない



でしょうか。EY新日本ならではの多様性に、さらに拍車がかかりそうです。こうした変化には、EY新日本のパーパス(存在意義)「Building a better working world〜より良い社会の構築を目指して」が導入されたことも背景の一つとして挙げられるでしょう。初めて耳にしたときは、なんて壮大なパーパスだろうと驚いたものでした。一人一人が自分のパーパスを大切にすることで、EY全体としてのパーパスの実現につながっていくという思いは、仕事のモチベーションに反映されています。私が一度EY新日本を退職したのは、夫の海外赴任に伴うためでした。その時の経験を生かし、今度は私自身が海外駐在に挑戦したいと考えています。国内企業の監査業務でも、海外とコミュニケーションする機会が大幅に増えました。この希望もかなうよう、もっと精進したいと思っています。

CAREER

- 2005年入社。大手自動車メーカーの会計監査を担当。先輩の指示に従い、真摯に取り組む。
- 2008年シニア昇格。引き続き大手自動車メーカーの会計監査を担当。
- 2010年夫の転勤に伴い、仙台事務所に異動。幅広い業種の監査を担当。
- 2012年夫の海外赴任が決まり、1歳の息子とともに帯同するため退職。その後、2人目の子どもが誕生。
- 2017年帰国後、子どもの保育園が決まってから、契約社員としてEY新日本に再入社。
- 2019年正社員に転換、マネージャー昇格。主に自動車業界のクライアントの監査を担当。



第5事業部

主に自動車業界と不動産関連のクライアントを中心に監査を担当しているのが第5事業部です。部内ではセクター(業種)別にチームが編成され、業界特有の専門的な知見、最新の情報に基づいたサービスを提供しています。同時に業界ごとのナレッジ活動を通じて知見と経験を共有することで、業界に特有の会計・内部統制上の課題に対応しています。

メンバー紹介

2005年入社
第2事業部
企業成長サポートセンター
JBS アシュアランスデスク
パートナー

M.Noguchi



IPO 支援を通じて、より良い社会の 実現に貢献する企業を世界へ送り出す

EY新日本ならではの圧倒的な実績

EY新日本に入社以来、スタートアップ企業のIPO支援業務に軸足を置いてキャリアを重ねてきました。年に数社のIPO達成を支援させていただいており、IPOを果たした経営者が別の企業に移って再びIPOに挑む際にお声をかけてくださることもあります。EY新日本は、2012年に「企業成長サポートセンター」を設置するなど、特にここ10年ほどIPO支援に力を入れており、ストックベースで常に300社前後のIPO支援案件を有し、IPO達成企業の監査実績は2018年から2022年まで5年連続トップです。この実績は他法人と比較しても圧倒的なものと自負しています。

IPO準備は数年単位のプロジェクトであるため、ぶれることなく一貫した支援姿勢を持つ監査法人と監査チームのサポートを受けることが重要です。この点、EY新日本は長期間にわたって安定的なIPO支援実績を有し、上場を果たすまでしっかり支援をする体制を整えています。こうした点が「IPOの相談ならEY新日本に」という評価に結びついているのでしょう。公認会計士にとってIPO支援業務は、前例にとられずに自身の知識と経験を基に高い裁量を持って進めていける点が魅力です。上場会社は過去に諸先輩方が築き上げてきた会計方針や内部統制がありますが、上場前の企業はそもそも会計監査を受けたことがなくそうしたルールがな

いケースも多く見られます。既存の会計方針や内部統制がない中で、創業者と二人三脚で上場に向けて試行錯誤し、道を開いていく醍醐味は、この仕事ならではのやりがいとなっています。

世界と闘うスピード感を学ぶ

前例に縛られずに取り組む余地が大きいことが魅力ではありますが、それは正解のない道を進んでいくということですので、絶対的なスピード感覚が求められます。国際的なアントレプレナー表彰制度である「EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」の世界大会に参加して世界のスタートアップを目の当たりにしたことで私はその思いを強くし、スピード感覚を身に付けるには自らが海外に出て行くことが必要だと考え、EY香港に駐在することにしました。香港は狭いエリアですが、世界中のビジネスパーソンが集まった濃い場所です。その中でEYのほかのサービスラインの専門家と共にクライアントの課題解決に取り組んだことで、経営者の伴走者として求められるスピード感や知見などについて、身をもって知ることができました。同時に、世界で闘うスタートアップを日本から送り出したいという思いも強くなりました。EY香港に駐在した3年間で私の意識は大きく変わったと感じています。なお私はEY香港ではジャパン・ビジネス・サービス（JBS）という組織に所属して活動していました。JBSは日本企業が海外に進出し成長するためのサポートを行うグローバルネットワークであり、この組織の存在も「EY新日本は成長戦略



の一つとして海外展開の支援もしてくれる」という評価に結び付いています。

IPOはゴールではなく通過点

IPO支援業務は上場を果たした際の達成感も大きく、EY新日本内でも希望者の多い業務となっています。圧倒的な案件数を誇ることから、入社1年目からでも携われる点も魅力の一つでしょう。私自身は「この会社の技術・サービスによって社会がよくなった」と誰もが感じられるような企業を一社でも多く資本市場に送り出したいと考えています。ただしIPOは決してゴールではありません。社会に対して永続的に価値を提供できる企業であり続けることが重要で、会計監査などを通じて上場後もそうした支援を続けていくこともEY新日本の使命です。上場会社となるための準備状況に疑問を感じたら、あえてIPOにストップをかける判断をすることさえあります。それができるのもEY新日本が、社会にとって真に価値あるIPOにこだわり続けているからです。



企業成長サポートセンター

EY新日本に蓄積されたIPO支援のナレッジを活用し、IPO関連イベントやセミナーなどを開催して、多くの成長企業に情報提供を行います。上場希望の企業に対してはナレッジやノウハウ、人脈等の総合力を駆使してIPO支援を行うとともに、上場後の監査も担当します。

CAREER

- 2005年入社。公開業務本部(当時)に配属され、スタートアップ企業のショートレビュー業務およびIPO準備監査業務に従事。また、財務デューデリジェンス業務などの組織再編に関連する業務も多数経験。
- 2008年シニア昇格。IPO準備監査業務の主査としてIPO達成までのプロジェクト管理を経験するとともに、IPOを目指すスタートアップ企業の発掘や監査契約獲得に向けた新規事業開発活動も担当。
- 2012年マネージャー昇格。EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー(以下、EOY)日本大会の担当マネージャーとして、モナコで開催されたEOY世界大会への参加を経験。
- 2014年EY香港へ出向。グローバル展開する日系企業の新規進出や現地法人への会計・税務を中心としたサポート業務、国際財務報告基準(IFRS)に基づく監査業務に従事。日本へのIPOを目指す現地企業の発掘にも成功。駐在中にシニアマネージャー昇格。
- 2017年EY新日本に帰任。グローバル企業の監査業務の統括主査を担当するとともに、数多くのIPOを目指すスタートアップ企業を担当。
- 2021年パートナー昇格。テクノロジーセクターを所管する第2事業部、IPOを所管する企業成長サポートセンター、JBS業務を所管するJBSアシュアランスデスクを兼務し、世界で勝負するメガスタートアップを数多く輩出すべく活動している。

MESSAGE

より良い未来を
一緒に創ろう!

メンバー紹介

2007年入社
第2事業部
パートナー

A.Hiraoka



キャリアアップとともに視座は高くなり、可能性も広がっていく

子育てしながらパートナーに

私にとって大きなターニングポイントとなったのは、入社14年目に長女を出産したこと、翌年にパートナーに昇格したことでした。産前・産後休業の取得直前、上司から「パートナーを目指してみないか」と打診された際は、これから出産・子育てを控えている私にはとても無理と思ったもので、けれど休業中に自分のキャリアについて振り返る時間を持てたことで、せっかくのチャンスをもたらされたのだから挑戦してみたいと考えるようになりました。既にパートナーを目指す女性のための「LEAP研修」を受けて、ほかのサービスラインの女性メンバーから刺激を受けていたことも、私

の背中を押してくれました。

EY新日本には子育てしながら働く女性が多いことから、復職に際しては何の違和感もありませんでした。母親として私の先輩になるメンバーも多く、子育てについてのちょっとした相談事なども気軽にできました。制度面でありがたかったのは「育児コンシェルジュ」です。特に保育園探しでは大いに助けられました。

ロールモデルとしての覚悟

復職してすぐにパートナーに昇格し、現在は大手消費財メーカーを中心に担当しています。マネージャー、シニアマネージャー時代よりも責任が重



くなったのは当然のことで、自分のチームのメンバーをどう育てていくか、クライアントとどう向き合うべきか、自分ならではのパートナー像を築くべく、取り組んでいるところです。実はマネージャー昇格を前にした頃、監査業務はもうやり切ったという思いから、自分が踊り場にいるような感覚になりました。当時の上司にそんな話をしたところ、ポジションが上がれば別の景色が見えてきて、実はまだ何もやり切っていないと気付くはずだというアドバイスをいただきました。その言葉通り、昇格するたびに仕事の幅が広がり、自分の視座は高くなっていくのを実感します。後輩の中には昇格することをためらったり、現状に閉塞(へいそく)感を抱いたりするメンバーも多いことでしょう。けれど思い切って一歩を踏み出すことで新しく得られるものは必ずあります。その意味でも私自身がロールモデルとなって、後輩の

ために背中を見せていきたいという思いを強くしています。

成長することで信頼に応える

ここ数年、EY新日本は大きく変わりました。特にデジタルツールの発達は目覚ましく、データの解析はツールに任せ、私たちは解析結果の判断やクライアントとのコミュニケーションにより力を入れるようになってきたと感じています。ガバナンスが企業の重要課題となった今、不正やセキュリティ上のリスクに対してクライアントは神経をとがらせています。その予兆を見つけ出す上でテクノロジーの活用は不可欠ですから、クライアントも私たちがどのようにデータを解析して活用しているのか、非常に高い関心を示しています。今後はリアルタイム監査の実現へと時代は進んでいくことになるので、私たちもテクノロジーに対する知見を磨き、クライアントの期待に応えていなくてはなりません。さらに私の担当する消費財メーカーはサステナビリティ活動に対して積極的な取り組みを行っており、私たちも非財務情報の開示について今まで以上に踏み込んでいくことが求められています。挑戦すべきことは多く、さらに成長を続けていきたいと考えています。

CAREER

- 2007年
入社。
学生非常勤として監査第8部(当時)に配属され、4カ月に入社。製造業や化学メーカー、ハウスメーカーなどの監査業務に従事。
- 2010年
シニア昇格。
中規模の上場企業などの主査を担当するとともに、IPO業務やリファラル業務にも従事。非監査業務や執筆活動などにも携わる。
- 2014年
マネージャー昇格。
監査業務に加え、事業部の品質管理活動やリクルーターとして採用活動に参加。法人代表として社外の「J-Win研修」に参加し、経験を積む。
- 2018年
シニアマネージャー昇格。
大規模消費財企業の統括主査を担当するほか、AQR部を兼務。「LEAP研修」にも参加。
- 2021年
長女を出産し、1年間の産休・育休を取得。
- 2022年
パートナー昇格。



MESSAGE

EYで自分らしい
キャリアアップも😊

第2事業部

✕ デビア系やエンターテインメント系、テクノロジーセクター、消費財など幅広い企業に監査およびアドバイザーサービスを提供。その中で消費財セクターは食品メーカーなどのクライアントを担当しています。身近な製品であるためにビジネスモデルを理解しやすく、監査の基礎を学ぶのに適したセクターとされています。

メンバー紹介

2007年入社
Forensics事業部
シニアマネージャー
A.Murata



不正調査を通じて社会の秩序を守る

企業を正しい道へ導く

会計不正や品質不正などの報道、コンプライアンスに係る問題など、企業の不祥事に関連した報道を耳にする機会が増えたのではないのでしょうか。不祥事が発生した際、かつての企業は適切な対処ができずに問題を重症化させてしまうケースもありました。近年は不正に対する社会の関心も高まり、企業を取り巻く各種規制が厳格化され、SNSの普及により情報が拡散するようなリスクも高まる中、企業においては不正発覚後の対応や不正防止策の構築に力を注ぐべきとの意識が高まってきました。このように不祥事に対して誠実に向き合おうとする企業、経営者をサポートするのがForensics事業部です。EY新日本の場合、Forensics事業部は

アシュアランスのサービスラインに含まれており、監査業務との親和性も高い点が特徴です。よって、さまざまな規模、業種の企業の監査業務を通じて企業本来のあるべき姿を熟知しており、そこからくる深い洞察と知見に基づいて、企業が正しい道へと向かうサポートができるのです。高い専門性を有する公認会計士が多数所属し、テクノロジー、法律や規制、コンプライアンスなど、各方面で高度な専門性を持つメンバーと日常的に連携できる環境があるからこそ、あらゆる業界の問題解決に対応できることも強みとなっています。

出向を通じて深い知見を得る

入社以来公認会計士として多数の日系・外資系企



業の監査業務に携わる中で感じたことは、不祥事が企業活動に及ぼすインパクトの大きさでした。そして小規模な不正であってもその対応に苦慮したり、日常ではない危機管理的対応やその後の社会からの信頼回復に向けた対策に苦勞する経営者や従業員の姿を目にし、彼らを救う力になりたいと思うようになりました。そこで、不正調査を含めこのような領域に関する専門性を高めるため、自ら志望して金融庁証券取引等監視委員会に出向し、2年間にわたって金融商品取引法違反の調査業務に従事しました。その結果、隠された不正を見つけ出すための視点やアプローチ方法を学ぶと同時に、個人や企業が不正に手を染める背景や発覚後の対処とそれぞれの経緯などを知り、改めて不正を未然に防ぐための体制構築の重要性や、不幸にも不正が起きてしまった場合の適時適切な対処の重要性をより強く認識しました。法律や税務などほかの分野のプロフェッショナルとコラボレーションする中、公認会計士としての専門性を強く発揮することが求められたことも成長につながりました。出向を通じてこうした機会

を与えてくれたEY新日本に感謝しています。

誠実に取り組む経営者のために

Forensics事業部は不正調査の支援だけでなく、企業の不正対策の支援、コンプライアンスリスク対応の支援、テクノロジー分野からデータ分析を通じたリスク評価支援やサイバー攻撃へのリスク対策支援などを行っています。私自身は公認会計士としての知識や出向先での経験を生かし、各種不正調査やテクノロジーチームと連携しデータ分析を通じたリスク評価などを支援しています。振り返ってみればそもそも私が公認会計士の道を志したのは、事業の成長を目指し活動する中、多くの規制や社会からの要請に対しても誠実に向き合い真摯に取り組む経営者をサポートすることで、専門分野から社会秩序の維持にもつながるような貢献をしたいと思ったことが出発点でした。Forensics事業部での業務は間違いなくその延長線上にあるものです。企業にとってはリスク認識やその改善に関する話題になるため、経営者に対し時には耳の痛いことも言わなくてはなりません、その結果、企業が課題を乗り越え正しい道に軌道修正を図れたときは大きな喜びが得られます。医師や弁護士といった高度プロフェッショナル人材は、自分ならではの専門領域を強みとしている方が多いと思います。公認会計士も同様にあるべきでしょう。Forensics領域で自分を磨くことは、そうした価値向上にもつながると感じています。

CAREER

- 2007年
入社。
監査事業部（当時）にて製造業やIT・ソフトウェア業を中心とした監査業務に従事。
- 2010年
シニア昇格。
主に日系グローバル企業の監査業務に従事。IFRS導入支援のアドバイザリー業務にも携わる。
- 2015年
マネージャー昇格。
日系・外資系のIFRS適用企業を中心とした監査業務に従事。
- 2019年
金融庁出向。
証券取引等監視委員会にて金融商品取引法違反に関する調査業務に従事。
- 2021年
帰任し、Forensics事業部にて各種不正調査業務を中心に従事。学生に向けた不正調査業務のインターンシップの開催などにも携わる。
- 2023年
シニアマネージャー昇格。



Forensics事業部

不正調査業務などを通じ、クライアントが一度立ち止まって内部統制や組織を根本から見直し、新たなステージに向かうことを支援しています。それによってより良い社会の構築に貢献しています。不正調査にはテクノロジーの活用が必須であることからForensics事業部の約半数はITの専門家で構成されています。

メンバー紹介

2003年入社
アシュアランスイノベーション本部
パートナー

N.Ichihara



当たり前です。しかし現実には不正が絶えることはありません。不正そのものも進化しており、膨大なデータの中に隠された不正の糸口を人間の力だけで見つけ出すようなことは困難になってきました。デジタル時代においても私たち監査法人が「市場の番人」としての使命を果たす上でAIをはじめとするテクノロジーの活用はより一層重要なものになっていくと考えています。EY新日本では「Building a better working world (より良い社会の構築を目指して)」というパーパス(存在意義)を掲げており、「アシュアランス4.0」はその実現に寄与するものです。少しでも不正の検知に役立つような監査ツールの開発を通じた貢献は、公認会計士である私にとって大きなやりがいとなっています。またEY新日本のさまざまな監査チームのニーズを拾い上げ、テクノロジーで解決していくプロセスそのものも醍醐味です。

よりエキサイティングな領域へ

グローバル化が進む時代に英語力が必須と言われたように、これからのデジタル監査の時代においてテクノロジーのスキルや統計・数学のリ



テラシーは必須となるかもしれません。入手できる情報がますますリッチになっていく中、情報を十分に活用するためにはこういったスキルやリテラシーによりデータを見る解像度を劇的に上げる必要があるからです。膨大なデータを自在に分析・活用し、より深く監査を行うような未来では、公認会計士がかつてないほどエキサイティングな職業になっているでしょう。皆さんにはこうした未知の世界に足を踏み入れることを恐れず、むしろ未踏の領域を切り開いていくことを楽しんでいただきたいと思います。これから公認会計士としてスタートを切る皆さんにとって、この上なく大きな成長を手に行ける環境がここにあります。

CAREER

- 2003年
入社。
国際部(当時)に配属。グローバル金融機関の監査に従事し、金融工学を学ぶ。
- 2007年
シニア昇格。
- 2009年
マネージャー昇格。
EYのニューヨーク事務所デリバティブ・バリュエーション・センターに赴任。米国の金融機関向けリスク管理アドバイザー業務に従事。
- 2011年
帰国し、金融事業部に所属。金融機関向けに、デリバティブ評価モデルやリスク管理のアドバイザー業務、監査に従事。
- 2014年
シニアマネージャー昇格。
大学院で数量ファイナンスや会計学、計量経済学、機械学習などを学ぶ。
- 2016年
修士課程修了。品質管理本部不正リスク対策部に異動。不正会計予測に機械学習のアルゴリズムを用いたEY新日本の独自モデルを構築する。
- 2018年
パートナー昇格。
- 2020年
アシュアランスイノベーション本部の立ち上げに携わる。

イノベーションの先陣を切る

世界に先駆けた対応と実績

テクノロジーの急激な進化が、社会やビジネスのあり方を一変させています。会計監査も同様です。EY新日本ではデジタル時代の監査のモデルを「アシュアランス(監査)4.0」として位置付け、長年受け継がれてきた伝統的な監査の世界から、次代の監査を目指すイノベーションに取り組んでいます。この取り組みを担うのが理事長直轄の組織であるアシュアランスイノベーション本部です。その中で私は、AIを活用した監査ツールのプロダクト開発を行うAIラボで副部長を務めています。デジタル時代の新しい監査のあり方については大手ファームを中心に多くの監査法人が意欲的に取り組んでいます。それらと比較したEY新日本

の強みは、群を抜く先進性にあるといえるでしょう。2016年には機械学習のアルゴリズムを用いた独自の不正会計予測モデルを構築し運用を開始しました。これは世界レベルでもトップクラスの早さでの取り組みでした。2017年には仕訳の異常検知の運用を開始し、今では多くの監査現場で利用が進んでいます。また仕訳の異常検知のアルゴリズムは特許も取得しました。こうした先駆的な取り組みは研究やパイロットの段階ではなく大規模な利用に耐えられるシステムとして運用されているのもEY新日本ならではの特徴です。

根底にあるのは普遍の使命感

投資家にとっては会計不正のない正しい世界が



アシュアランスイノベーション本部

「アシュアランス4.0」を見据えて2020年に発足。企画部門のイノベーション戦略部、監査部門を組織的に支援するCoE推進部、AIを活用した監査ツールやプロダクト開発を行うAIラボ、監査ツールの導入・展開を行うアシュアランステクノロジー部で構成されています。

メンバー紹介

2018年入社
第1事業部、
アシュアランスイノベーション本部(兼務)
シニア
T.Koizumi



MESSAGE
お会いできる
のを楽しみに
しています

メンバー紹介

2017年入社
CCaSS事業部
シニア
Y.Furubayashi



MESSAGE
EYで自分だけの
キャリアを築こう!!

CAREER

- 2018年
入社。
主に化学メーカーの監査に従事。
- 2019年
前職のITベンチャーでの経験を生かしAIラボと兼務。仕訳異常検知ツールの開発・オペレーションなどを担当。
- 2021年
引き続き化学メーカーの監査に従事しつつ、AIラボを兼務。AUP(合意された手続き)業務をはじめとする非監査業務にも従事。シニアに昇格。

T.Koizumi

2018年入社
第1事業部、
アシュアランスイノベーション本部(兼務)
シニア

ITベンチャーでエンジニアとして約2年勤務した後、EY新日本入社。1年目から現在に至るまで大手化学メーカーの監査に従事する一方で、2年目よりAIラボとの兼務を続ける。基本的にはインドア派で、休日はネットで映画を鑑賞したり、本を読んだりして過ごしている。

テクノロジーを新たな強みに

公認会計士としての基礎を固める

ITエンジニア出身の私がセカンドキャリアの場としてEY新日本を選んだのは、大手会計ファームの中でデジタル化に最も力を入れていると感じたからです。加えて会計士としての経験がゼロだったため、着実に成長できる環境があることや、意思表示を行うとすぐにチャレンジできる風土・雰囲気があることも決め手となりました。入社以来、大手化学メーカーの監査に従事。振り返って実感するのは、大手企業を担当することで企業としての「あるべき姿」というものを学べたことです。内部統制1つとっても大手企業ほどしっかり構築されており、それらに触れることで公認会計士としての確かな軸を確立できたと思います。

高い価値を発揮し続けるために

2年目からAIラボと兼務を続けています。主にAIで不正を検知するツール「EY Helix GLAD」によるデータ解析を担当し、現在は建設工事における異常検知ツールの開発やテストに携わっています。普段監査業務で担当していない業種の実務に即した知見、ユーザーからのリアルなフィードバックが得

AIラボ

AI監査ツールをはじめ次代の監査・保障サービス「アシュアランス(監査) 4.0」の実現を目指して発足したのがアシュアランスイノベーション本部です。その中でAIラボは、リアルタイム監査の仕組みづくりを視野にAIによる不正検査ツールなどの開発を担っています。「EY Helix GLAD」に搭載された会計仕訳の異常検知技術は特許を取得しました。



られ、監査や開発両方の観点からも非常に得難い経験ができていると感じています。私がITエンジニアから公認会計士へとキャリアチェンジした背景には、公的な資格を取得することで安定的な道を拓いていきたいという思いがありました。しかし、入社後、急激に監査のデジタル化が進み、もはやテクノロジーを使いこなせない公認会計士は淘汰されるのではないかとさえ考えるようになりました。AIラボでの業務を兼務することで私は自分ならではの新たな強みを磨いていることを実感します。AI時代においても高い価値を発揮し続けるために、大手企業の監査を通じて公認会計士としての「あるべき姿」を固め、その上でテクノロジーの知見を高めていけることは、EY新日本ならではの魅力です。

CAREER

- 2017年
入社。
第3事業部にて、製造業の中小企業の監査チームに配属される。1年目よりさまざまな経験をさせてもらった。
- 2019年
英語を使いたいと希望し、大手半導体メーカーの監査チームに異動。その後、外食チェーンやIT企業の監査チームへ。会社法監査の主旨も経験する。
- 2020年
シニア昇格。
大手工作機械メーカーの監査チームに異動。かねてアドバイザリー業務に興味があり、モビリティ制度を利用して異動を申し出る。
- 2021年
CCaSS事業部に異動。TCFDを含む非財務情報の開示支援や、人権デューデリジェンスのアドバイザリー業務に従事する。

Y.Furubayashi

2017年入社
CCaSS事業部
シニア

難関資格に挑戦して自分の可能性を広げたいという思いで公認会計士を志す。誠実な人と一緒に仕事がしたいと願い、EY新日本に入社。5年間にわたって公認会計士としての基礎を磨き、その後、アドバイザリー業務にも携わりたいとモビリティ制度を利用してCCaSS事業部に異動する。休日はジムに行ったり英語の勉強をしたり。椎間板ヘルニアと戦いながらゴルフにもいそむ。

アドバイザリーへのキャリアチェンジ

非財務分野でクライアントを支援

私が所属するCCaSS(気候変動・サステナビリティ・サービス)は、主に企業の気候変動をめぐるリスクや機会への対応、さらにはサステナビリティと経営戦略の統合をサポートしています。その中で私は、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)開示支援業務や非財務情報の保証業務、人権デューデリジェンスのアドバイザリー業務などに従事しています。異動してからは、会計や監査の知識をほぼ使用しなくなったものの、監査時代に培ったスキルは大いに役立っていると実感します。監査調書の作成を通じて得た文章を作成する力や、監査での質問や資料依頼の講評などの経験で得たクライアントとのコミュニケーションスキル、分からない事象にあたったときに自分で調べ、さらに周りを巻き込んで解決する力などは、今の業務でも欠かせないスキルになっています。

自らの意志で道を拓く

入社以来会計監査に携わり、公認会計士としての基礎を固める一方で、アドバイザリー業務にも興味を抱くようになりました。転職も1つの手段ではありましたが、EYの自由で開かれた組織風土が自分にとっても合っていると感じていたため社内での



模索していたところ、ESG(環境・社会・ガバナンス)に関するアドバイザリーサービスを展開するCCaSSの存在を知りました。興味が湧いたもののこれまでとまったく異なる分野であったため、カウンセラーやグループ長に相談したところ、面白いキャリアになると思われ、挑戦すればよいと背中を押していただきました。そのような心強い後押しもあり、モビリティ制度を利用して、CCaSSに異動することができました。こうしたキャリアチェンジができるのはEY新日本の大きな魅力といえるでしょう。EY新日本は世界有数のアカウンティングファームとして知られているだけでなく、ESGコンサルティング分野においても世界のリーダーであると評価されています。私もその一員であることを自覚し、将来的には財務、非財務どちらにも通じたジェネラリストとしての道を歩んでいきたいと考えています。

CCaSS事業部

CCaSS事業部では、ESG/サステナビリティの全社戦略、特定領域別の戦略、保証業務を中心としており、企業の課題解決を推進して長期的価値創造を実現します。

メンバー紹介

2014年入社
EYストラテジー・アンド・
コンサルティング
コンサルタント
M.Morioka



MESSAGE
みんな☆
がんばれ!!

メンバー紹介

2007年入社
EYロンドン(出向)
シニアマネージャー
Y.Mitsui



MESSAGE
プロって成長できる
フィールドも山がEYです!!

CAREER

- 2014年
入社。
名古屋事務所に配属。精密工業、建設業、学校法人などの監査に従事。アニュアルレポート(英文財務諸表)の作成やリクルート活動も経験する。
- 2017年
シニア昇格。
自動車部品メーカー、小売業、学校法人などの現場主査としてチームマネジメントを担当。IPO準備にも携わる。
- 2019年
フィリピン語学研修(1カ月)に参加。
- 2021年
モビリティ制度を利用し、かねて希望していたSaTのTRS部門に出向。主にアミューズメント業界の再生案件に携わる。

M.Morioka

2014年入社
EYストラテジー・アンド・コンサルティング
コンサルタント

人材紹介会社で転職アドバイザーとして働いた後、公認会計士を目指してキャリアチェンジ。EY新日本に転職する。名古屋事務所で監査業務を中心に経験を積んだ後、7年目にSaTに出向。学生時代からバックパッカーとして世界を旅してきた。今の目標はウクライナへの再訪。

新たな成長を目指し、自らの意思で出向へ

メンバーファームへの門戸が開かれている

私がモビリティ制度を利用したEY Japanのメンバーファームへの異動を考えるようになったのは、新しい環境で自分の可能性を広げたいと思ったからでした。名古屋事務所での7年間、幅広い業種のクライアントに対して監査業務を中心に英文財務諸表の作成、IPO準備などに携わるうちに、「数字を見る」だけにとどまらず、クライアントと一緒に「数字をつくる」業務にも取り組んでみたくなったのです。そこで希望したのが企業価値向上などの戦略的アドバイザリー業務を行うSaTでした。転職することなく、異なるフィールドでの挑戦に一步を踏み出せるのは、メンバーのキャリア形成に意欲的なEY新日本ならではの魅力です。

多様な視点、新しい知見を身に付ける

企業・事業再生を手がけるTRS部門で、私はアミューズメント企業の案件を担当。資金繰り状況のモニタリング、グループ会社の統廃合、清算価値の算定、債権者向けの説明資料の作成などを行っ



ています。クライアントと一緒に再建計画書を作成し、金融機関や債権者のもとへ説明に出向くのですから、まさに運命共同体の一員として取り組んでいる実感が得られます。債権者の数字に対するシビアな目線を知ることもできました。一緒に働く仲間は銀行出身者、証券会社出身者など、バックグラウンドは多彩。公認会計士はむしろ少数派ですが、同じプロジェクトで働いている弁護士の方々と仕事をすることも多いのですが、同じプロジェクトで働いている弁護士の先生方の案件の進め方、物事の考え方など、日々勉強になることばかりです。出向期間は2年間です。ここでの経験を新たな糧として、私ならではの価値が提供できる公認会計士を目指していきたいと思っています。

EYストラテジー・アンド・コンサルティング

EYストラテジー・アンド・コンサルティングは2つのサービスラインが統合した法人です。EY新日本の戦略コンサルティングサービスの集約により、大手クライアントに向けて成長のための多様な支援業務を行っています。

CAREER

- 2007年
学生非常勤の後、入所。
- 2014年
マネージャー昇格。
海外出張や海外子会社とのコミュニケーションを通じて、海外駐在を志すようになる。
- 2017年
シニアマネージャー昇格。
主に建設業、海外の自動車部品メーカーの監査に従事。
- 2018年
日系企業の監査に加え、ほかのサービスラインと連携してジャパンデスクとして新規開発に携わる。
- 2019年
日本に帰国。
自動車・産業機械部品メーカー、建設業などの監査を担当する。
- 2022年
EYロンドンに出向。
日系企業の監査に加え、新規監査の受け入れやジャパンデスクとしてのクライアントサポートを担当。

Y.Mitsui

2007年入社
EYロンドン(出向)
シニアマネージャー

2007年入社。主として製造業、建設業、ライフサイエンス、自動車部品メーカーなど、幅広く監査を担当。日本基準、国際会計基準および米国基準に基づく多国籍企業の監査も経験する。EYロンドンでは、自動車・産業機械部品メーカーや商社の監査に携わる。2歳の娘と自然豊かな公園で遊んだり、パパに足を運んだり、ロンドン生活を満喫中。

成長する機会を与えてくれるEY

二度目の海外出向でさらなる成長を

EYメルボルンの海外出向から帰国し3年後、一度目の経験や帰国後での業務を通じて、もう一度海外出向で、自分の成長できる場所に身を置きたいと考えました。これは、自分が理想とするパートナーを目指す上でも必要なキャリアパスと考えたからです。その結果、今度はEYロンドンに出向することができました。このようにEY新日本にはチャレンジしたいと手を挙げるメンバーは必ずチャンスを与えてくれる風土があります。思い起こせばシニア時代、視野を広げたいと希望する私に、ナレッジがそこまでなかった業界の主査を任せてくれました。メンバーの「チャレンジしたい」という気持ちを尊重し、上司を含めた同僚がしっかりとサポートする、このカルチャーこそEY新日本の最大の魅力であり、私が籍を置き続けている一番の理由です。

期待値を上回るパフォーマンスで

EYロンドンでは主に日系企業の監査、新規顧客の



開発、クライアントの親会社と子会社の橋渡しを行うリエゾン業務などに携わっています。心がけているのは、常に相手の期待値を理解し、その期待を上回るアウトプットを提供することです。これは対クライアントのみならずチームメンバーに対しても同様で、多様な人種や価値観が混じり合う環境で同じマインドを共有するために、常に相手のことを知り、その期待を上回るパフォーマンスを自分に課しています。イギリスは会計監査先進国であるため、最新のナレッジが得られることも魅力です。こうした経験は帰国後、私に大きな価値をもたらしてくれると考えています。

EYロンドン

EYは150カ国以上で監査・保証業務、税務、ストラテジー・アンド・トランザクションおよびコンサルティングのサービスを提供しており、全世界を「Americas(北・中・南米)」「Asia-Pacific(アジア・パシフィック)」「EMEA(欧州、中東、インド、アフリカ)」の3つのエリアに区分して運営しています。欧州には約41の拠点があり、EYロンドンはそのうちの1つの組織です。

Cross Talk

若手メンバー×パートナー座談会

楽しんでほしい、それぞれのキャリアの道

キャリアの多様な選択肢が用意されているEY新日本。自らチャレンジすることで、目指す道を歩んでいくことができます。同じチームに所属するパートナーと2人のスタッフが、EY新日本ならではのカルチャーや成長へのターニングポイントなどについて語りました。

温かみあふれる

職場と誠実な仲間たち

Sakaguchi 私がEY新日本を選んだのは、この企業なら自分らしく働けるのではと思ったことが一番の理由でした。説明会で先輩方が自分の言葉で話している姿を見たことが、そのきっかけです。こうした印象は入社後も変わらず、挑戦してみたい仕事を希望した時もかなえていただきました。

Kawagishi できるだけ本人の希望を実現させてあげようとする風土は、EY新日本の伝統だと思います。公認会計士の仕事は、どれだけ経験という引き出しを持っているかが重要ですので、その意味でもさまざまな経験が積める環境は素晴らしいと思います。

Kojima 私はリクルーターの方の人柄が決め手でした。入社したらどこに住むのがお勧めか、どの店のランチがおいしいかなど、生活全般まで含めたお話をしていただいたんです。とても親身に説明してくださり、こういう先輩と一緒に仕事がしたいと思いました。

Kawagishi 一期一会を大切にするのがEY新日本のリクルーターなんです。だから時には面談が人生相談の場になってしまうこともありますよ。

Kojima そんな温かみがEY新日本らしさですね。基本的に真面目で誠実ですが、堅すぎることはありません。

Kawagishi 実は私もそんなカルチャーに引かれEY新日本に入社しました。私は要領が良いタイプではないので、せっかく公認会計士になれたのだからじっくり仕事に取り組み始める環境が向いていると思っていました。以来20年以上がたちますが、その雰囲気は今も変わっていないと感じます。

Sakaguchi チームの皆さんに私の誕生日のお祝いをしていただいたのには驚きました。

Kawagishi 忙しい時期だったのですが、みんなの息抜きも兼ねて提案したところ、Kojimaさんが「幹事をやります」と快く引き受けてくれました。子育て中の女性メンバーも「こういう機会があると出かけやすい」と喜んで参加してくれました。

Kojima 女性が多いのはこのチームの特徴ですね。私は入社以来このチームにいるのでこれが自然だと感じています。女性の活躍促進は社会の大きなテーマであるものの、特に意識することなく過ごしています。

Sakaguchi 女性が理事長を務めていることはとても象徴的で、女性活躍促進に対して有言実行の組織だと思いました。

Kawagishi EYシンガポールでは男性が少数派で、女性の活躍は当たり前のごとくでした。その経験から私は会計事務所は女性が輝ける職場だと知っているの、女性の公認会計士のキャリアサポートをこれからのマイパースと考えています。女性が働きづらい職場は、男性にとっても居心地の良い職場ではないはずですね。

それぞれの挑戦を通じた成長体験

Sakaguchi 会計監査は感謝されることが少ない仕事というイメージでしたので、入社1年目にクライアントから「来年度もぜひあなたにお願いしたいです」と言われた時はうれしかったです。その思いにしっかり応えなければと感じ、自分も感謝の心で仕事に取り組んでいこうと決心しました。

Kawagishi 「証券市場の番人」として監査人は、時にはクライアントに耳の痛いことも言わなくてはなりません。それでもSakaguchiさんが感謝の言葉をいただけたのは、コミュニケーションのスキルが高いからだと思います。

Kojima 私が印象的だったのは2年目に、入社したばかりの新人に対する研修の講師を務めたことでした。教えることを通じて自分が勉強し直すきっかけになったと思います。

Kawagishi 確かに人に教えることは自分自身の成長につながるの、素晴らしいチャレンジになったことでしょう。

Kojima 現在は英語によるディスカッションのOJTも兼ねて、海外経験の豊富なパートナーやマネージャーに交じって、海外の子会社監査チームとのミーティングに参加させてもらっています。いずれは海外駐在にも挑戦したいですね。

Kawagishi 私は10年目にEYシンガポールに駐在し、それまで経験したことのない営業活動をしました。監査だけでなく税務、ストラテジー・アンド・トランザクションやコンサルティングなどのほかのサービスライン、ほかの国のEY新日本のプロフェッショナルとのコラボレーションが日常

S.Kojima

2020年入社
第1事業部
スタッフ

入社以来、製造業を中心に監査業務、IPO業務に携わる。デジタル分野でも経験を積む。将来は海外駐在も希望。休日はサウナでリフレッシュ。長期休暇ではチームの先輩や後輩と旅行を楽しんでいる。最近はゴルフを始め、どうやったら上達できるか、試行錯誤中。



茶飯事で、それぞれのプロの力を集めれば、創業期から成長期、清算まで会社の一生に関わるあらゆるサービスが提供可能であることを学びました。そのことは、EY新日本の一員として、また、一人の公認会計士として、社会に果たせる役割の大きさを知る上で、とても貴重な経験となりました。視野がすいぶん広がったのは間違いありません。また、人材こそサービス品質の要であると改めて認識できたことは、パートナーとしてチーム運営を考える際に大きく役立っています。

好奇心を大切に、チャレンジしてほしい

Kojima 最近私が感じるのは、誠実さを特に大切にしたいということです。私は未熟なので失敗することもあるのですが、その時もごまかさず、まずはしっかりと謝るようになっています。

Kawagishi 誠実さは一人の人間としてとても大切な姿勢ですよ。同時に会計監査の専門家としてふさわしい知識を備えつつ、相手の立場に応じたわかりやすい言葉で伝えていくことも忘れてはなりません。専門的な難しい内容を、かみ砕いて説明することができてこそ、「プロフェッショ

ナル」と信頼されることになります。

Kojima これから入社される皆さんに期待したいことは、私たちに新しい刺激を与えてくれることですね。どんな目標でも結構ですので、将来のビジョンに対して前のめりの方ならば、大歓迎です。

Sakaguchi 同感です。自分でやりたいことが明確な人が隣にいと、切磋琢磨(せつさたくま)できますね。EY新日本は多様性も尊重していますから、いろいろな価値観を持った方にぜひたくさん入社してほしいと思います。

Kawagishi さまざまな専門性や持ち味を備えた人材が一つのチームとして働くことで大きな価値を生みだしていくのが、EY新日本という組織です。そうした場の広さ、懐の深さも、大きな魅力なのは間違いありません。

Sakaguchi 成長していく上で大切なことは何でしょうか。

Kawagishi 好奇心を失わないことです。私はEY新日本というのは「最高の遊び場」だと思っているんです。好奇心があればチャレンジの機会は自分次第でいくらでも手にすることができますから、ぜひワクワクしながらEY新日本でのキャリアを楽しんでいただきたいと思います。



T.Kawagishi

2001年入社
第1事業部
パートナー

大手メーカーなどの監査業務、IFRS導入支援業務などを経てEYシンガポールに駐在。帰任後、複数のグローバル企業の監査チームを統括。パートナー昇格後はEY新日本のグローバル人材の育成、女性活躍推進に注力。同僚でもある妻と年2回の海外旅行(コロナ禍前)、国内旅行(コロナ禍後)も楽しむ。



道は自ら拓ける。そこに意志があれば。

北海道から沖縄まで日本全国に拠点を置くEY新日本は、地域のニーズに応える品質の高いサービスを提供しています。エリアの違いにとらわれないキャリアの可能性、女性の活躍を支える環境などについて、大阪事務所と名古屋事務所のマネージャーをご紹介します。

主体的にキャリアをデザインできる

Amano 私は手に職をという思いで選んだのが、公認会計士の道でした。

Katayama 確かに、社会の一員として長く働きたいと考えたとき、公認会計士は男女の別なく活躍できる仕事なのは間違いありません。自分の専門性を発揮することで誰かの役に立てたとき、そしてその結果感謝されたときは、大きな喜びを感じます。

Amano クライアントとコミュニケーションをとって事業への理解を深め、課題と一緒に解決していくことのやりがいは大きいですね。

Katayama Amanoさんはグローバル企業を担当されるなど、国際的な業務が多いそうですね。

Amano 海外に関連する仕事がしたいと希望して入社し、子どもたちを生んだ後、10年目には海外派遣プログラムを利用して米国のサンノゼ事務所に2年間出向しました。実はこのとき夫は仕事を休職し、家族みんなで米国で暮らしていました。

Katayama 夫の海外駐在に妻がついていくパターンはよくありますが、逆は珍しいですね。

Amano 夫も当時はEY新日本に勤務しており、私が産休・育休で2年間休職したから今度は自分の番ということで休職し、子どもと共に米国へついてきてくれたんです。EY新日本大阪事務所にとって前例のないことであったものの、周囲の理解・協力もあって快く送り出してもらえました。おかげで夫も“主夫”生活をエンジョイできたようです。

Katayama それぞれの家庭の事情にあわせ、柔軟に制度を運用してくれる点はEY新日本の素晴らしいところですね。組織としての懐の深さを感じます。名古屋事務所では子育て中のメンバーが「フレキシブルワークプログラム」^(※1)を積極的に利用しており、在宅勤務制度もコロナ禍以前から利用されていました。仕事と家庭を両立させるためのサポート体制はとても充実していると感じます。



Amano 在宅勤務制度のおかげで時間の有効活用が進みました。仕事の効率が上がっただけでなく、昼休みにヨガをしたり通勤時間帯にジョギングしたりと、プライベートの時間を楽しんでいます。

Katayama 「週に何日出社しなくてはならな



シニアマネージャー

志さえあればキャリアの可能性は無限。選択肢は自分で広げられます。

い」というルールがなく、自分で決められるのがいいですね。働き方を主体的にデザインできます。自分が必要だと感じたらリモートミーティングで済ませず、直接クライアントに足を運ぶことも珍しくありません。

※1 フレキシブルワークプログラム=時間外勤務・休日出勤の免除や、短時間勤務、所定勤務日数を低減できる制度

自分が輝く上で拠点の違いはない

Amano 大阪事務所は東京事務所の10分の1ほどの規模で、アットホームな雰囲気です。

Katayama さらに小規模なのが名古屋事務所です。みんなフランクでパートナーとの距離が近いのは、地区事務所ならではの魅力ですね。たまたま隣の席にパートナーが座ったから「こんな仕

Osaka × Nagoya



M.Katayama

2008年入社
名古屋事務所
マネージャー

愛知県出身。大学卒業後、SEとして働いた後にEY新日本に入社し、名古屋事務所へ。高速道路会社、製造業、学校法人と幅広い業界の監査に従事し、最近では地方公共団体の包括外部監査などパブリック関係の仕事も担当。休日は息子と公園巡りを楽しむ。子どもと思い切り遊べる体力づくりが今の関心事。

事をしてみたい」と直接相談するということも珍しくありません。

Amano 業界や業務ごとのくくりがなかったり、垣根が低かったりするのも地区事務所ならではの、幅広い仕事に挑戦できます。

Katayama 名古屋事務所では最近IPO関連業務や海外リファーマル業務が増えています。監査業務や非監査業務、セミナーの講師など、希望すればどんどん仕事の幅を広げられます。

Amano そうした意味でも、地区事務所だから仕事に限界があるのではといった心配は杞

マネージャー

自分の働き方は自分で決める。主体性こそが成長を促してくれます。

憂ですね。例えばEY新日本では社を挙げてDigital Auditへの取り組みを行っていて、私は西日本事業部のDigital Audit推進委員として最先端のデジタルツールの周知活動などに取り組んでいます。地区事務所に所属していてもEY新日本全体の活動においてコアな仕事ができおり、東京と地方との差はほとんどありません。

Katayama モビリティ制度が充実しているため、自ら望めば拠点間の異動もかなえやすいですね。
Amano 結婚を機に実家のある大阪に帰ってきたというメンバーが大阪事務所にいますし、逆に大阪事務所から東京や福岡へ異動していくメンバーもいます。カウンセラーによるカウンセリングを通じてキャリアを見つめ直す機会が用意されているのも、主体的に異動をする上での支えになっていると感じます。

Amano そんなふうには先輩方が支えてくれるところがEY新日本らしさですね。そこに男女の垣根はありません。

Katayama 先ほどAmanoさんがDigital Auditに触られたように、本格的なDX時代において、私たちも自分自身をさらにアップデートさせていかなくはなりません。デジタルツールは単純作業から私たちを解放し、経営課題の解決など本質的な業務に集中できる環境を実現してくれると思います。

Amano 「Japan GradLab」^(※2)に代表されるように若いメンバーが中心になってDigital Auditに取り組んでいます。EY新日本の先進性は、これから入社される方にとっても魅力的なことでしょう。

Katayama 名古屋事務所では、女性として私が一番上のキャリアにあります。後輩の皆さんに多様なロールモデルを通じてキャリアの幅を見てもらうことが、これからの私のビジョンです。チャンスがあればぜひパートナーへの道を目指したいですね。

Amano 私はこれまで海外のビジネスについての知見を磨いてきたので、今後もさらにグローバル企業への貢献を続けていきます。そしてKatayamaさんと同じく、パートナーを目指したいと考えています。

Katayama 拠点は違っても同じ志の仲間がいるのは、刺激になります。ぜひ道を拓いていきましょう。

Amano 拠点は違っても同じ志の仲間がいるのは、刺激になります。ぜひ道を拓いていきましょう。
※2 次世代を担う人材を対象とする人材育成プログラム



先輩から後輩へ、道を拓きたい

Amano 私の場合はサンノゼ事務所への出向が一つの転機となりましたが、Katayamaさんにとってのターニングポイントは何でしたか。

Katayama シニアからマネージャーに昇格したときでしたね。私にマネージャーが務まるか、一時は昇格をためらっていました。そのときパートナーが「そういう不安と向き合える人にこそ、チャレンジしてほしい」と言ってくれたんです。その言葉に背中を押され、思い切って一歩を踏み出すことができました。昇格してみると仕事に対するスタンスがまったく変わり、あらゆることに対して能動的に取り組むようになりました。視野も広がったと思います。

Amano そんなふうには先輩方が支えてくれるところがEY新日本らしさですね。そこに男女の垣根はありません。

Katayama 先ほどAmanoさんがDigital Auditに触られたように、本格的なDX時代において、私たちも自分自身をさらにアップデートさせていかなくはなりません。デジタルツールは単純作業から私たちを解放し、経営課題の解決など本質的な業務に集中できる環境を実現してくれると思います。

Amano 「Japan GradLab」^(※2)に代表されるように若いメンバーが中心になってDigital Auditに取り組んでいます。EY新日本の先進性は、これから入社される方にとっても魅力的なことでしょう。

Katayama 名古屋事務所では、女性として私が一番上のキャリアにあります。後輩の皆さんに多様なロールモデルを通じてキャリアの幅を見てもらうことが、これからの私のビジョンです。チャンスがあればぜひパートナーへの道を目指したいですね。

Amano 私はこれまで海外のビジネスについての知見を磨いてきたので、今後もさらにグローバル企業への貢献を続けていきます。そしてKatayamaさんと同じく、パートナーを目指したいと考えています。

Katayama 拠点は違っても同じ志の仲間がいるのは、刺激になります。ぜひ道を拓いていきましょう。

※2 次世代を担う人材を対象とする人材育成プログラム

EY | Building a better working world

EYは、「Building a better working world (より良い社会の構築を目指して)」をパーパスとしています。クライアント、人々、そして社会のために長期的価値を創出し、資本市場における信頼の構築に貢献します。

150カ国以上に展開するEYのチームは、データとテクノロジーの実現により信頼を提供し、クライアントの成長、変革および事業を支援します。

アシュアランス、コンサルティング、法務、ストラテジー、税務およびトランザクションの全サービスを通して、世界が直面する複雑な問題に対し優れた課題提起 (better question) をすることで、新たな解決策を導きます。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくは ey.com/ja_jp/people/ey-shinnihon-llc をご覧ください。

© 2023 Ernst & Young ShinNihon LLC.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp